SR NEWS

datatec データ・テック

vol.52 2010年 9月発行

やさしい運転 safetyrecorder® series

特集 第11回 SRお客様交流会

2010年7月9日(金) in 大田区産業プラザPiO

SRを活用する、また検討中のお客様同士を結びつけるSRお客様交流会。第11回を迎えた今回も、様々な業種の76社123名のお客様に参加していただきました。

1.輸送の安全・品質向上に向けての第1歩 株式会社明送 様 P1
2.SR導入による安全運転管理と運転者の意識変化について 三菱電機ビルテクノサービス株式会社 様 P2
3.SR点呼システム第1号導入の運用状況のご報告 アサヒロジスティクス株式会社 様 P3
4.セイフティマップ活用事例 東京電力株式会社 様 P3
5.次回講演に向けて 株式会社スズケンロジコム 様 特定医療法人 頌徳会 様 P3

社員・事業者間でSR点数の競争が自然発生！普及の鍵は、楽しみながら活用すること

株式会社 明 送

取締役 一ノ瀬 慶一 様(左)　守谷営業所 所長 三池 紀久男 様(右)

株式会社 明 送

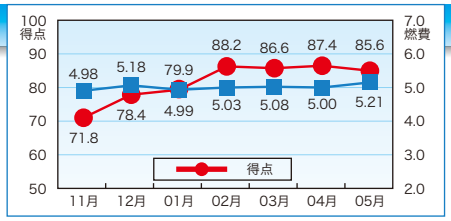
本社所在地：茨城県守谷市百合ヶ丘1-2354-100
営業拠点：守谷営業所・東北営業所・埼玉営業所
設立：1967年7月1日
代表者：代表取締役　鶴岡 英男
従業員数：96名
事業内容：輸送業務（主に乳製品、チルド・フローズン製品等の食品）
車両台数：10t冷凍車(25両)、4t冷凍車(49両)、2t以下他(2両)、合計76両
SR導入：2009年11月、全車両76台にSRPocketを導入済

会社概要

1 SR導入効果 ～燃費をはじめ、車両に関する運用コスト削減

効果1 全社平均7.5%燃費向上！

効果2 事故の内容が軽微なものへと変化
車両保険料・メンテナンス費や修理費等の大幅コスト削減



2 SR導入の経緯～費用対効果や、走り方を重視してSRを選ぶ

2009年7月、交流会に参加してSRの良さや効果を知り、同年10月から導入（11月、全車両に搭載）。**「食の安全と交通の安全の両立」**「安全環境対策への積極的な取り組み」という社長の思いと、SRによって**走り方を重視した安全運転が身に付く**ことが、導入のきっかけでした。

データ・テックのSRに決めた理由

金額　トータル費用の安さ
内容　走り方を重視。安全運転が自然と身に付く
効果　導入企業の事故件数の減少や燃費向上を参考
満足度　交流会に参加。導入企業の満足度を感じて

3 SR導入・運用時の工夫～楽しみながらSRを活用し、がんばった社員への報奨制度を導入

SR導入とともに、社員が安全運転に対して**がんばった分、還元される仕組みづくり**を目指しました。運用管理者による準備期間を経て、各営業所にてSRを導入開始。運転者は、①「速度チャート」、②「点数」を印刷することで、自分の運転内容を確認、上司に報告を行います。その際、運転管理者は**運転内容を「見てやり、話を聞いてやる」**ことが大切。「解析レポート結果」を各営業所に送付することで、営業所同士で競い合う雰囲気も生まれました。またエコドライブによって削減した燃料費を原資として報奨制度（例えば大型、4tで100点1回につき、400円）も取り入れました。

運転者が日々確認しているもの

印刷して確認

①速度チャート

②点数

PCで確認

点数一覧

4 まとめ、今後の課題

SRによって**走行事故が軽微になり、社員の安全意識や運転技術は、確実に向上**しました。反面、点数の低い運転者や「伸び悩み（消極的）運転者」に対する底上げが課題になっています。また管理者もSRデータについてもっと勉強して、解析レポートを自分で作れるようにしたいと思っています。

インタビュー～運転者様の生の声

運転技術が身に付き、日常業務はもちろん、プライベートでもクルマの運転に対する安全意識が格段に高まりました。

株式会社 明送　守谷営業所　風見様

運転者と指導者の両者に対して大きな意識変化をもたらしたSR効果

三菱電機ビルテクノサービス株式会社

東京支社　安全衛生推進部長　**渡部 悟志** 様

三菱電機ビルテクノサービス株式会社

本社所在地：東京都荒川区荒川7-19-1
営業拠点：全国287拠点（2010年4月1日現在）
設　　立：1954年3月
代 表 者：取締役社長　石川　正美
従業員数：7,982名（2010年4月1日現在）
事業内容：トータルビルシステムサービス事業
（トータルビル管理サービス、
ビル診断・コンサルティング、総合リニューアル）
車両台数：東京支社　4輪102両
SR導入：2007年1月（東京支社全車両導入、110台）

1 SR導入効果 ～2年間の事故数がゼロ！ 運転者全員の運転技術が向上

運転者をはじめ会社全員の
安全意識が向上!

＋

効果1 SR平均得点40点→75点に大幅アップ！（+35点）

効果2 東京支社で2年間事故0を達成

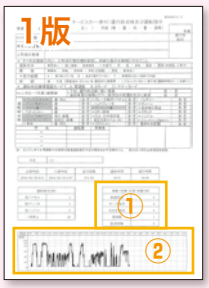
2 SR導入の経緯～ 叱るツールではなく褒めるツールとして導入開始

自社は、「ビルを、まるごと、心地よくする」をモットーとしたトータルビルシステムサービス事業の会社。安全・安心は命題であり、車両運転においても“大切な業務の一環”です。2004年、SRのトライアルを実施し、2007年に全車両導入を決定。SRは、**「叱るツールではなく、褒めるツール」**として活用することを前提に導入。
SRは装着しただけで事故が減る、お守りやお札でないので、①「その機能を知り、当社の運転管理体制に合った仕組みを作る」、②「フィールド（現場利用者）の声を聴き、管理サイドではなく利用サイドに立った仕組みを作る」――を目標に運用を開始しました。

2004年7月	SR試用を開始
2007年1月	全車両へ導入（SRPocket 110台）
2007年7月	運行指導書（オリジナル版）作成
2009年1月	その後、変更を重ね現在にいたる
2010年4月	運用開始3年目を迎える

3 SR導入の工夫～従来の安全指導システムにリンクさせ、SRの仕組みをシンプル化

社内のSR仕組み作りの中でも、もっとも工夫したのが、「業務用車両運行前点検及び運転指示書」（以下、日報）です。従来からある日報の仕組みとリンクさせ、**面倒くさくない仕組み作り**を目指しました。
管理者側、利用者側の両方の意見を取り込みながら、3年間で4回の改定を繰り返しました。SRの操作から日報作成、報告までの**手順を単純化**することで、使いやすい内容に改善していきました。



①注意挙動、危険挙動回数
②タコメータデータ

運転点数の追加

運転特性をグラフ化

運転アドバイスを
自動印字

4 まとめ～運転技術・安全意識・燃費の向上を達成

SRにより運転者が自分の運転を客観的に見れるようになり、事故の予防運転が自然に身に付きました。また上司の安全意識や指導力も向上し、事故の減少とともに車の燃費も上がりました。**自社の現状にあったSRの仕組み作り**を行い、定着させ会社全体でスパイラルアップすることが成功の秘訣だと感じています。

SR搭載車

アドバイス風景

詳細はSRNEWS vol.51で紹介

新コーナー 安全運転技術は0.3Gの体得とSR指導から

三菱電機ビルテクノサービス株式会社
東京支社 安全衛生指導員 **吉田** 様

安全運転のコツと、指導ポイントは何？

道路の状況にかかわらず、急発進、急ハンドルなど「急」がつく操作は厳禁。急な操作は0.3Gを超えています。0.3Gを体感してもらうため、ワインのコルクを使った指導も行っています。コルクを車内に置き、それが倒れるか否かで、自分がいつ急操作をしたかが、その場で理解できます。
点数の低い人には私が車に同乗し、SRで減点されやすい0.3Gの加速度がかかるポイントをその場でアドバイスすることで、自分で運転のまずさに気が付き、納得してもらいます。

高得点と運転指導の秘訣は？

まずは0.3Gを体で覚えることが大切です。SRは、点数やグラフなど様々なデータによって自分の運転を客観的にみることができるツールです。私が運転者を指導する際にも、まずはSRデータを参考にして、運転者の個人特性や弱点を知ることで指導の目安とします。報告書を提出する際には、運転者の悪いところだけではなく、良いところを必ず見つけて報告書に盛り込みます。それも、安全運転指導の秘訣ですね。

新製品「SR点呼システム」の発表と アサヒロジスティクス株式会社の試験導入状況

アサヒロジスティクス株式会社
取締役常務執行役員 **檜木** 様

交流会にてアルコールチェック結果とSRデータを連動・管理できる「SR点呼システム」のデモを実施。同製品の試験導入中のアサヒロジスティクス株式会社 檜木様から感想や要望を発表していただきました。

SR点呼システムは、来年4月からの「運送事業者のアルコールチェック」義務化を受け、アルコールチェックの結果を「日報」に反映させたいというお客様のご要望をもとに作りました（弊社製品発表より）。

主な特長

1. アルコールチェック結果と、SRデータ（運転診断結果）を「点呼記録簿」に自動的に出力可能
2. 「拘束時間管理表」を出力できるので、集計作業のコストを削減可能
3. 拘束時間超過や免許証有効期限の確認・警告の機能を搭載

SR点呼システムの機器構成

運行管理全般のシステム化を目指したい

2006年からSRを約500台導入。事故の半減や燃費8％向上などの成功を受け、2009年SRデジタコ410台を再投入しました。手作業による運行管理業務の簡素化などアナログ作業の悩みを解消するため、SRデータを活かしたSR点呼システムの開発を依頼しました。現在もトライアル中で、基本機能の試用に加え自社の運行管理業務に最適化しています。
今後も運行管理全般のシステム化を目指し、労務管理や車両台帳など運行管理に関する帳票を網羅できるシステムに育てていきたいと思っています。

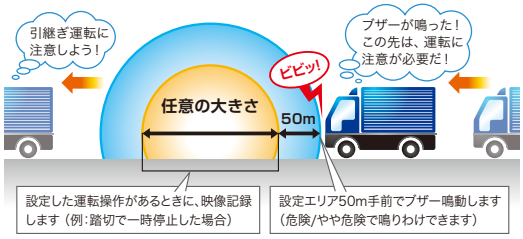
業務前点呼の画面。11の点呼項目のチェックが可能。
業務後も11項目の点呼チェックができる

導入後の約2年で事故が0件に！ 東京電力株式会社のセイフティマップ事例

東京電力株式会社
千葉支店 副長 **久保木** 様

「セイフティマップ」は、事故多発地点など予め登録したエリアに進入した際、ブザー鳴動や映像記録を行う危険予知システム。東京電力株式会社は、2006年から業務車両1,921台に対して導入。同社では、①警察が公表する危険地点、②社員が危険を感じた地点、③実際に事故が発生した地点――の3つを「危険マップ」として設定。従来は、運転者の危険地点の周知に任せていたが、危険マップの事前参照や、運転中のブザー吹鳴によって運転者が危険を事前に予知できるようになりました。危険マップ内に入ると、自動的に映像を記録。この映像を元に安全運転指導ができるので、同乗指導と同効果が得られました。

セイフティマップの画面



危険予知のプロセスフロー

新コーナー

次回講演に向けて

株式会社 スズケンロジコム 様
特定医療法人 頌徳会 様

次回のSRお客様交流会で事例発表をお願いします2つの会社様にご挨拶をいただきました。

株式会社 スズケンロジコム
管理部 副部長 **長井** 様

今秋9月よりSRを導入します。来年2月までの半年で成果を出せるか心配ですが、SR導入初年度事故50％削減とエコドライブ推進による燃費10％の向上を目標に取り組んでいきます！

特定医療法人 頌徳会
総務部 主任 **安藝** 様

事故削減のため、安全運転教育の材料の1つとしてSRを採用。現在、月1回各事業所において日々のSR点数やデータをもとに、運転者の安全運転指導を繰り返しています。

意見交流レポート

in 第11回SRお客様交流会

お客様交流会の各社ご講演後、同じ車種・業態のお客様ごとに各テーマを設け、8グループに分かれて、SRに関する意見交換を実施いたしました。その代表的な内容をご紹介いたします。

【導入時の悩みを解決するための仕組みづくり】

- 指導する側が、SRに対ししっかり理解をして指導にあたる
- ヒューマン的な事からの意識付けをして、技術向上をめざす
- まず運転者個人を大切にし、次に仕事をいただいている荷主様や会社を大切にするといった意識を共有する

【評価体系について】

- 点数ではなく、燃費で評価する（点数と燃費は比例する）
- SR点数で評価ができない場合は、注意挙動の件数で評価する

【SRデータの活用方法（白ナンバー）】

- 会社の看板を背負っていることを認識させる
- 管理者から刺激を与える
- 褒める仕組みづくりが重要
- 指導についてムチだけでなく、アメ（表彰制度）も必要
- 管理者からの指導は非常に影響がある（見られていることの緊張感）

【運行管理者の心構え】

- 安全の基本に立ち返る
- 社長の考えを運転者に伝え、理解してもらう
- 点数を気にし過ぎずに、危険挙動が何故出たかを指導する
- 普段の会話で、運転者の意識を低めない伝え方をする

【マンネリ打破の工夫】

- 目標点数を決める。報奨金の範囲を広げる
- グループ分けしてリーダーを決めて競い合わせる
- 報奨金も大切だが、褒めることが重要（表彰状を渡す。意欲が低い人をリーダーにする）

【SRの社会的評価について】

- データだけに頼り過ぎてしまうと、本当の運転が見えにくい
- 中部地区で、運転者さん付きで社会実験に協力している
- SRで高得点を狙った運行をしても、時間の差はほとんどない
- 導入時は点数で評価。点数が安定してきたら次のステップへと進む

【SRデータ活用（青ナンバー）】

- 映像によりもらい事故の証明ができ、乗務員を守ることができる
- 映像により距離感を意識させることができる
- 安全大会のヒヤリハット防止として使用できる

【本社と営業所のフィードバック方法】

- 導入までの準備として、体制を整える
- 管理者が運転者へ情熱を持って指導する
- 運転者への表彰制度を設けたり、ゲーム感覚で楽しめることを運転者に知ってもらう

今回も、SRの積極的な活用方法や、運用のノウハウ等、より充実した意見の交換がなされました。ご出席の皆様に貴重な情報として持ち帰っていただき、ご参考にしていただければ幸いです。

株式会社データ・テック フォローアップ情報（イベントスケジュール）

SRセミナー定期開催！

SRを活用するための学習会です。様々な疑問やご質問にお応えします。

セミナースケジュール（10月、11月）

セミナー参加には、**事前申込みが必要**です

■北海道地区SRセミナー（札幌）

10月14日（木）

テーマ：①運転診断の着目点
②運用方法についてご紹介
③困っていることについて解決のお手伝いをします

会　場：北海道トラック協会3F 第2研究室（地下鉄南北線中島公園駅下車徒歩3分）

■SR実車講習会（埼玉）

11月15日（月）

～スムーズ点にお悩みのドライバー様へ！～

トラックに乗って、スムーズ点アップのコツを体感していただきます。

会　場：埼玉県トラック総合教育センター（秩父鉄道寄居方面 永田駅下車徒歩約25分）

【お問い合わせ先】
株式会社データ・テック 企画事務局まで TEL 03-5703-7060

※日程、会場等は都合により、変更する場合があります。変更になる場合は、事前にご連絡いたします。

株式会社データ・テック
〒144-0052 東京都大田区蒲田4-42-12
TEL.03-5703-7060　FAX.03-5703-7063
http://www.datatec.co.jp

2010©株式会社データ・テック